

旭川医大病院ニュース

題字は吉岡病院長
(編集)
旭川医科大学医学部附属
病院広報誌編集委員会
委員長 並木教授(三内)

『病院ニュース』 発刊によせて

本院が開院してから満七年が経過した。各部署の日常業務は軌道に乗り、本院の地域医療における役割りもほぼ定まって、今後は内容の充実にどう取り組むかが私たちの課題である。

病院長 吉岡 一

ところで、本院には約六五〇名の職員が働いているが、これだけの大所帯になると一年中お互いに一度も顔を合わせない職員がいても不思議ではない。しかし、同じ目標に向けて力を合わせる

『病院ニュース』 発刊を祝う

病院は大学病院も市中の病院もみな患者さんのためにある。患者さんほどの人も違和感を訴え不安を抱いて、私達に相談しようとして来院に来るのである。旭川医大病院では、毎日、入院を含め千人以上の患者さんを迎え、一人一人を登録記録し、一人一人を訴を解決してゆく。私達はそれぞれの患者さんの担当をきめチームをつくり、患者さんと一

緒になって問題解決にあたるのである。考えてみれば、まことに複雑で難しい、どこをとつても、おろそかにできない重大な仕事である。この大事業を行うには四七四人(旭川医科大学概要(昭和五八年度)に出ていた(昭和五八年度)の病院附属病院職員数)の病院職員だけでなく、講座の教官も、大学の事務官も、臨時職員も、財団旭仁会の方々も、食堂、理美容、郵便

せるべき我々のあいだには、やはり心の通いあう場がほしいものと折にふれて考えていた。

今月は外来患者さんが何名受診されたか、も知ってほしいし、各部署ごとの人の動きや行事なども知らせたいものである。役所の通知は四角い文書で流されて来るが、なかには肉づけてもつと広くお知らせ

局、清掃等々病院にある凡ての施設で仕事を携う人々、さらに学生諸君も含め、五十職種以上おそろく千五百人位になる人々の協力なくしてはできない。「病院ニュース」発刊の待望されていた所以である。吉岡病院長の決断と編集責任並木教授のお世話により実現を見ることはまことに喜びにたえない。本紙を皆さんの広場とし、情報を交換し、透明で静穏で、病める人を勇気づける病院をつくって頂きたいと存じます。

すると便利と思うものもある。将来は折にふれての随想や短歌などもいかがであろうか。このようなことが、「病院ニュース」発刊へのいきさつである。

お世話役の編集委員には院内から九名の方々になつていただき、委員長は並木教授におひきうけにたいた。折角の試みなので長く継続し育てていただくように、各診療科長はじめ職員各位の積極的な御協力を期待する次第である。

創刊に思う

昨年は、本学の十周年を無事迎えました。病院も今年から八年目に入りました。まず、新年の賀を申し上げます。常々感じていたことは、病院組織が年毎に整備され業務も拡大されるにつけ他部門との疎通が稀薄になってきた点です。新年を期に本紙が誕生したのは有難いことです。情報の伝達・交換の場として、私共も活用させて頂きます。又、編集に当っては、外部からの苦情を取り上げる狙いもあるやに聞いています。賛成です。情報過多の時代とはいえず、院内では案外知り得ない事柄があると思われ

現状の看護業務を想ひます。この現状の枠の中で業務がどのようにして出来るのか、業務調査等を通して再検討する年と考えています。有資格者の平均年齢二六・五才で若いキャリアアウーマンです。日常の看護業務及び企画された現任教育の中から、又スポーツ、遊びの中からも看護する心を育て、患者が安全な医療で安楽な入院生活を送り、社会復帰が出来ることへの看護援助が継続的にかつ計画的に行えるように今年も努力し発展させたいと思つていきます。

明けましておめでとございます。看護職員全員が一九八四年の新春を元氣いっばいで迎えました。他職種の皆様本年もどうぞお柔軟かにご指導とご協力をお願い申し上げます。開院して八年目に入りました。この期間に約五七〇人の看護職有資格者が採用されました。その内退職者は二八〇人で採用数の四九%にあたります。五八年四月から一二月末までの退職が一一人いて例年の如くですが業務のこととを考えると早く四月の春になって欲しいと思つてい

昭和五八年十二月一日付
木下 明氏

十二月一日付で谷本周太郎事務局長が辞職され、後任に、木下 明氏が就任されました。同氏は、昭和二年十一月三日生で長野県出身、文部省、静岡大学、信州大学、新潟大学、宇都宮大学、長崎大学を経て、この度、北海道大学経理部長から本学事務局長に就任されました。

- 人事異動
- 〈採用〉
- 看護部長 岡崎フサ子
 - 眼科助手 門 正則 (58・12・1付)
 - 泌尿器科助手 大橋健児 (59・1・1付)
 - 産科婦人科助手 佐川 正 (59・1・1付)
- 〈辞職〉
- 泌尿器科助手 佐々木正人 (58・12・31付)
- 〈医長交代〉
- 〇外来医長 池田明穂
 - 〇精神科神経科 有馬 滋 (58・12・1付)
 - 〇藤枝俊儀 (58・12・16付)
 - 〇徳中荘平 (58・12・16付)
 - 〇病棟医長 吉田晃敏 (59・1・1付)
 - 眼科 秋葉 純 (59・1・1付)
 - 薬剤部長 橘 高 毅

放射線部から

旧来の医学部放射線部の統合が遅れて継ぎはぎだらけになっていたのに、本学は新設に際し、徹底した中央化が図られ機能を果たしているのは、創立時の幹部教授の理念によるもので、放射線部所属の職員は深く感謝している。また日常の診療に大きなトラブルもないのは利用される医師の御理解とのお詫びを申し上げるものである。

検査部は臨床検査について責任を全うすべく努力しているが、検査人員の不足は如何ともしがたく、一部の検査を外注に頼らざるをえないのは大変残念なことである。数名の人員の配置があれば、その相当部分を補うことが可能と思われ、口惜しい思いをしているのが実情である。

しかし、すべてがスムーズに進んでいるのではなく、患者の増加、医学の進歩につれて患者の待時間の延長、予約日の遅延、診療時間の不足などが目立ってきた。これを補うため新しい技術の導入、手技の開発に職員一同努力を積み重ねているが、その進歩は遅い。

放射線部の実地運用には各診療科から一人宛参画して戴く放射線部連絡会があり、運営の基本思想は放射線部委員会で図られ、運営委員会が決定される。患者

が、研究面での放射線利用は中央研究所を御利用戴いているので、不便な点もあり、研究面での協力も今後は欠かせないものと考えている。

大学病院の外來や病室で診療だけしていると、看護婦、受付事務員と顔を合せただけで毎日が過ぎて行きます。物事が円滑に動いているかぎり、病院内にどれだけの職種の人々が働いているのか考え

病院で働く人々

も、いつもと多少違ったことをすると、今迄気付かずにいた人々の仕事ぶりが目に入ります。例えば、急に患者から問合せがあったと

ンターの人がいます。また、我々がよく知っているつもりでいる薬剤・検査・放射線部などにも、目立たない重要な仕事をしている人々がいることと思えます。

病院内の機能が十分に發揮され、患者に満足してもらうためには、直接かかわり合いを持つ医師・看護婦・受付事務員の仕事が滞りなく進まなければなりません。これを陰から支えて下さる人々の仕事ぶりも、病院ニュースの中で紹介することが出来れば、病院内で働いている人々の相互理解に役立つところが大きいでしょう。

小児科 奥野晃正

外注検査の現況

た事を反映して、外注検査も飛躍的に増加してきている。五五年に年間二万件弱であったのが、五七年には三万件を超え、増加率は六七%である。依頼項目は二百を超えているが、件数が多いのは各種下垂体・副腎ホルモン、ウイルス性肝炎関連抗原抗体、および抗核抗体・補体関連検査で、これらで約四〇%近くを占めている。

これは最近の医療の進歩、本院での医療の充実を反映していると思われる。

しかし一方で我々は、人員などを含め有限の経済環境の中にあるのであるから、患者診療に真に必要な検査を選択することも重要であると考える。

検査部長 牧野幹夫

新年交礼会

去る一月四日午前八時五十分から附属病院会議室において附属病院新年交礼会が開催された。吉岡病院長の年頭挨拶、木下事務局長の乾杯の音頭で、出席者全員が新年の抱負も新たに、会は盛況のうちに終わった。

本紙の編集に当たって

旭川医大病院ニュースが発刊されることになった。これが病院各職場の相互理解を深め、円滑な病院運営に役立ち、そのことがひいては患者のためになるなら、こんなよいことはない。実際にそうありたいものだと思ふ。そのためには今後どのような編集のあり方がよいか、皆様のご意見をうけたまわりたい。

はじめから立派なものを望むのは無理であるし、ともかく始めてみよう、そして読者の意見を参考にしながらだんだん育て上げ、ながく続けていこうというところで本紙は出発した。

当分の間は二カ月に一度、

並木正義

『病院ニュース』の編集委員会について

このたび病院の横の連絡を良くすることを目的として、広報誌を編集することとなり、委員会は次のメンバーとなりました。

皆さんの、ご協力をお願いいたします。

委員長 並木教授 (三内)

委員 天羽教授 (放射線科)

委員 奥野助教 (小児科)

委員 信岡技師長 (検査部)

稲垣副部長

十五日発行を予定している。職場での問題点、要望事項、患者との対応において考慮すべき事柄、また実際に患者の苦情など気付いた点があれば、なんでもよいから原稿(二〇〇字の原稿用紙二枚以内、用紙は調査係の中村さんまで)にして下されば幸いです。

また、編集部から原稿の依頼があったときは、よろしくご協力をたまわりたい。話題だけでも編集委員に提供して下さいと有難い。

開始以上はほとんどまでも続けていきたいものである皆様のご支援を重ねてお願いしたい。

編集委員会委員長 並木正義

増岡副部長 (薬剤部)

木村課長補佐 (看護部)

大沢課長補佐 (庶務課)

委員会庶務担当 調査係 (内線三二二六)

カット募集

病院ニュースに載せるカットを募集します。素敵なカットを調査係へお寄せください。
